

数学

名古屋大学 文学部、教育学部、法学部、経済学部、
情報学部（人間・社会情報学科）（前期）

1 / 1

<全体分析>

試験時間

90分

解答問題数

3題

解答形式

全問論述式。

分量・難易（前年比較）

分量 減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

出題の特徴

全問小設問によって構成されている。

1と2は理科系と共通問題だった。

その他トピックス（入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など）

数学Bの範囲からの出題がなかった。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
<u>1</u>	式と証明 微分法と積分法	数学Ⅱ	3次式を2次式で割った余りに関する問題。 3次関数のグラフの利用。	標準
<u>2</u>	確率	数学A	サイコロを3回投げて出た目が条件を満たす確率。	標準
<u>3</u>	微分法と積分法	数学Ⅱ	2つの放物線によって囲まれた部分の面積に関する問題。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

難易度が高いものが出題されることもある。まずは典型的な問題を必ず解けるようにした上で、過去問を十分に研究し、問題を正しく読み取る力、複雑な事象を整理する力、それらを答案に正確に表現する力をつけておこう。

特に、微分法と積分法、確率、図形と方程式、整数、数列は頻出の分野である。これらの分野は重点的に演習を積んでおくとよい。

近年、文科系では数列や整数の出題がやや減っている印象があるが、引き続き十分な対策をとっておくべきであろう。